

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり水島 あかり (放デイ)			
○保護者評価実施期間	R7年1月14日 ~ R7年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	R7年1月14日 ~ R7年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	13名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児やその家族について、職員間で情報や支援を共有していること。	日々、個別支援計画についての話し合いの時間を設けている。 各職員が日々の様子を記録している。	利用児の様子だけでなく、より個別支援計画に沿った内容で話し合いを進められるよう意識している。
2	生活面・認知面・コミュニケーション面と、それぞれの場面で家庭や集団生活に般化できるよう支援を組み立てていること。	多職種がそれぞれの専門性を活かしてお子さんの強みや芽生えに働きかけている。 引き継ぎ・懇談時間を設けている。 家庭や関係機関に引き継ぎや訪問を通して共有を図っている。	関係機関とのやりとりに差があるため、今後も積極的に働きかけて支援の方向性を統一していく。
3	近隣施設や地域・法人の行事等への参加の機会があること。	こども関連の事業所や公共施設、公園が多く、事業所外の遊びに触れたり、人と接したりする機会がある。	より回を重ねることで、こども同士のふれあいを期待する。 事業所のことを知ってもらう取り組みに繋げていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	移動・移乗の課題。	施設の老朽化。 介助・介護のノウハウ不足。	昨年廊下やトイレに手すりを設置。今後、利用児に合わせたUDトイレや手洗い場等への修繕・改修を検討。 介護福祉士による事業所内研修。 福祉用具の導入。
2	スペースの課題。	ひとり辺りの必要なスペースは基準を満たしているが、身体が大きい学童や車いす・バギー・歩行器を使った児の移動となると、幼児さんと比較して狭いと感じやすい。	共有できる部屋を活用して活動や年齢ごとに過ごすよう工夫している。
3	地域との交流の機会。	利用児が小1～中1の年齢幅で、今後進級・進学・就労への移行支援が求められる。	役割活動・お仕事体験等、幅広い経験ができるよう計画している。